

健康ワンポイントアドバイス

発行：十日町市中魚沼郡医師会

発行日：平成26年3月発行

第142号



輸入感染症

今村 彰（小千谷総合病院附属十日町診療所 所長）

最近、外国への日本人旅行者数(年間1700万人)、外国からの訪日者数(1000万人)の増加が注目されています。これにより、外国に多い病気が国内でも多くなる可能性が指摘され、心配されています。

このなかで、例えば蚊によって感染するマラリアなどの名前をご存じの方の多いと思います。また、近辺の事業所には、中国に派遣されるとき、ウイルス関係の何種類ものワクチン接種を義務的に受けていく方も御出です。

しかし、これで安全というわけではありません。ワクチンで予防できない病気も多いのです。もちろん、普通はそれぞれの地域ごとの病気についての注意があらかじめ示されていますし、最近では病院でも、帰国した人の海外渡航歴は必ず聞くことになっています。

一方、本来日本にはほとんどない病気にも、国内で感染することがあります。数年前、当地山間部に在住の高齢の方で、ジアルジア症と診断された例があります。これは東南アジアに多い寄生虫病で、いわゆる旅行者下痢症のひとつ、軽症のまま治ってしまいましたが、問題は感染の経路が不明だったということでした。旅行どころか、自宅からあまり離れることがなく、町のスーパーにも行かない、との事でした。

また以前、韓国型出血熱をみたことがあります。知り合いが感染し、重症化してしまいましたが幸い回復しています。これはネズミで運ばれるウイルス病で経路がわかりました。

さらに、しばらく前に新聞ざたになった中国でのウイルス性肺炎は、今のところおさまっているかのように言われていますが、中国にはまだ残っている可能性もあります。とにかく、海外に行くときは情報に注意し、感染症に注意しておいてください。帰国後、周囲にも影響を及ぼす可能性があるからです。

